

# オウム対策住民協議会ニュース

## 「脱麻原と言う上祐の設立する新団体とは」

オウム対策住民協議会 第14回学習会要旨

5月12日(土) オウム真理教(現アレフ) 対策住民協議会が主催した第14回抗議デモには一八〇名が参加した。その後「脱麻原と言う上祐の設立する新団体とは」と題して、産経新聞社会部記者、加藤達也氏の講演(三〇〇名参加)が行われた。それに先立ち滋賀県湖南市平松地区オウム対策委員会委員長釣田正統氏の活動報告が行われ、参加者からは、共感の大きな拍手が送られた。

### 1. 上祐派「ひかりの輪」の近況

今日は、取材で明らかになったことを報告するが、上祐派ができたことが、最近のオウムをめぐる大きな話題である。上祐派は、当初の予想より少ない約一六〇人(アレフ信者の1割)を引き連れて分裂したが、オウムの持つ強引で、狡猾で、ずる賢い性格は、しつかりと引継いでいる。例えば、新集団を監視対象にすることを公安調査庁に自ら願っていたが、これは、麻原色を排除し、社会的に認知された教団であることを国に認めさせることを狙ったずる賢い手口といえる。しかし、公安調査庁の立入り検



査で、縁をきったはずの麻原の肖像やマントラを吹き込んだテープ、更に、押入れのスノコの下のシバ神の絵(オウムの信仰の対象)が発見され、墓穴を掘ってしまった。また、上祐の側近が名前を隠

烏山地域オウム  
真理教(現アレフ)  
対策住民協議会

してヨガサークルを開いていることもバレたが、これに対して上祐は、個人の問題で、新団体は全く関知していないと責任逃れをしている。

### 2. 反上祐派の近況

嘘をついてまで言い逃れをする上祐派「ひかりの輪」は、関係のないふりをしてもオウムそのもので、信頼関係を築けない集団であるといえる。

反上祐派(現アレフ)では、麻原の家族の生計が話題になった。まず、教団を離れ江川紹子氏のもとで自立している四女を除いた麻原の4人の子供達は、側使えの信者1人と5人で越谷に、妻知子は側使えの信者1人と2人で茨城竜ヶ崎に住んでおり、年一、五〇〇万円ほどが教団から提供されていることが判明した。教団側は、月40万円は知子の絵画(宗教画)へのリース料としているが、その他にも私立中学校の入学金や授業料、2週間の海外旅行費用(越谷に住む5人分)などが丸抱えになっている。被害者への弁済額約50億中、実際に返済されたのが3割の15億で、残る35億の支払い目処もついていない状態でのこの気楽な生活には、被害者やその家族から憤りの声が上がっている。

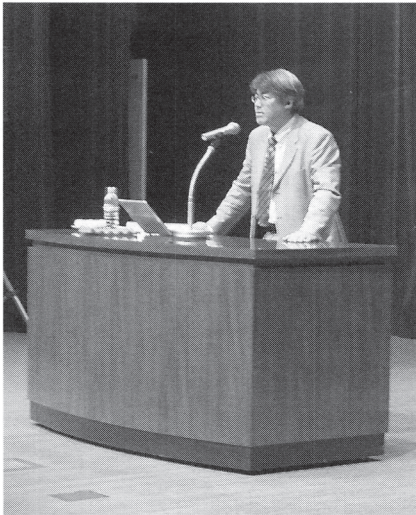
### 3. オウムのこれからを予測すると

麻原の死刑が確定した事と、かつての「安かろううまかろう亭」や「マハーポーシャ」といった商売が成り立たない状態を踏まえて今後を予測すると、拠点分散化と、水面下の非合法活動に集約される。現在では、上祐派、反上祐派ともに、オウムの名前をだしては商売ができず、

### 滋賀県湖南市平松地区の活動報告

滋賀県湖南市平松地区オウム対策委員会実行委員長 釣田正統

湖南市は琵琶湖の南南東にある人口五万の地方都市で、その平松地区は、市郊外の山中にあり、約一〇〇戸の住民が住む集落だ。10年前、ここにオウムが突然住み始め、最初の事件、尿尿廃棄事件が起こった。当初1人だったオウム信者は10人に増え、20坪ほどの木造家屋に半年ほど住んだ頃には、その排泄物の扱いに困り、オウムは、大量の水とともに、下水道に尿尿を垂れ流した。平松地区がある山の裏手には市の浄水施設があったため大きな問題となり、これをきっかけに、市から15万円の予算を貰い、6人の住民が集落を代表してオウムと闘うことになった。信者から恫喝されたり、嫌がらせを受けながらも、集落の人達をまとめ上げて、平成11年の5月に、最初の抗議



社会から弾き出されているため、オウムを隠すために集団居住を止め、一般社会にでて(水面下に潜んで)普通の人として暮らすようになるであろう。拠点分散化である。又、麻原の刑執行後は、麻原

議集会開催にまでたどり着いた。以降、集会は続き、この5月27日には21回目を迎える。まだ出口は見つからないが、我々の監視活動がオウムの暴発を抑えてきたと信じている。今後も烏山とスクラムを組んで、オウムに立ち向かって行きたい。よろしくお願ひします。



の家族への帰依が高まり、彼らに良い生活させるため、オウムを隠して新規の信者獲得に励むであろう。水面下の非合法活動である。麻原の代わりとしては、妻知子と子供達の家族合議制がとられると予測している。

### 4. 我々ができること

マスコミや地域が一体となり、強固で執拗な監視を続けることで、拠点を暴き、一般人を装う、仮面を剥いでオウムを白日のもとに晒すことが、究極のオウム対策と信じている。この意味でも、住民協議会の活動が力強く続けられることを望む。

## 第14回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 2007年5月12日(土)

【回収枚数】 84枚

【学習会や対策住民協議会への感想、意見・希望等】

- ・ 地域住民が強い関心を持っていることを示し、行動してゆくことがアーレフの動きを規制することになる。
- ・ デモは今回は少人数だったが、まとまってだらだらせずに進行したと思う。
- ・ 高齢者や病人・障害者が70%以上の団地では、監視活動は大変厳しいという現実があります。夏の暑いとき、冬の寒いときの2時間は考えるときに来ていると思います。もっと若者をまきこむべきと思います。
- ・ 釣田さんの反対運動の話聞き、烏山でもこれからも続けて運動をしていかなければならないと思った。
- ・ 何回このデモに参加したでしょうか？私達の活動がなんの効果もないと思います。住民たちの苦しみ、思いがちとも届いていないように思われてなりません。
- ・ デモの際、タスキをかけますが、左からか右からかに統一し、学習会でも、参加者全員がハチマキ・タスキを着用したほうが良いと思います。
- ・ 今回初めて参加して、この土地に長年居住している者として、絶対に昔の穏やかな町を取り戻さなければ本当の意味の安住ではないと感じた。
- ・ デモは、距離が短いので2回くらい回ったほうが良いと思った。

- ・ 同じような活動をしている団体の皆さんの話は、元気が出ます。
- ・ 区議の方にもお話をしたいです。
- ・ 新団体設立の中で、時宜を得たものと思います。家主の相続問題や、今後の相続の見通しなども近隣住民に可能な範囲で情報提供して欲しい。
- ・ 産経新聞の方のお話が良かった。新聞の折込チラシを見てきたが、会場の参加者が何をみてこの会を知ったのか、知りたい。新聞とテレビの違いについてよく理解できた。
- ・ デモ終了後、皆様にお茶の1本でも差し上げて欲しいです。
- ・ マスコミ・テレビなどは、新団体立ち上げで騒いでいるような気がする。普段は静かで、忘れていたようです。
- ・ 講師の新聞人として戦う健筆姿勢を聞いたことは、大きな励みになったと考える。

【今後の学習会のテーマ】

- ・ 脱会した人達の経験や反省を聞きたい。
- ・ オウム財産やオウムの商売(資金源解明)
- ・ オウム教団内での死亡者について
- ・ オウム担当の刑事の話(退職者でも良い)
- ・ 脱会した幹部らのその後
- ・ 常に直近の情報提供(地域、公安、警察、行政)
- ・ 何故宗教法人にのめりこむのか(世を捨ててまで)、その心理を、心理士や専門医の解説・臨床経験などを聞いてみたい。
- ・ 脱会支援の苦労話

## 岐阜県美濃加茂市よりオウム信者撤退!

岐阜県美濃加茂市には、本郷町と西町に2つのオウム居住施設があり、反対運動が続けられて来た。

平成8年8月 本郷町(相生という名の自治会)に女性信者2名転入。

平成9年2月 西町に信者転入。  
いずれも名古屋在住のオウム信者が借主となり、借家契約が行われている。

平成9年3月 「相生2オウム対策委員会」が設置される。

平成9年3月 信者の数は男性10名、女性7名の住民登録が確認された。

平成11年5月 美濃加茂市は、全国組織「オウム真理教対策関係市町村連絡会」に入会する。

平成11年6月 美濃加茂市は自治体として「美濃加茂市オウム対策委員会」を設置する。

平成11年10月 相生自治会に続き「西町オウム対策協議会」

が設置される。

市と2つの町会・自治会が活動を始める。

主な活動は、家主と一緒に信者への退去を求める。信者への転入拒否の呼びかけ。公安調査庁への申し入れや調査依頼。観察処分更新の署名運動などが行われて来た。

平成19年2月 オウム信者が2つの施設から退去する事になり「西町オウム対策協議会」は自然解散。「相生2オウム対策委員会」は2月3日に解散した。

撤退後の信者は、一部脱会すると言われているが、まだアーレフ会員名簿から削除されていないのではと思われる。

夫婦信者が1週間の研修に参加した様子なので、再入会の恐れもある。

2つの施設の荷物などは、東京へ運ばれたと確認された。又、撤退した信者は名古屋施設への転入が確認された。

美濃加茂市は「オウム真理教対策関係市町村連絡会」から、平成19年3月31日脱退をした。

## 住民協議会活動報告

5月 9日(水) 事務局会議  
5月 11日(金) 学習会広報車活動  
5月 12日(土) 学習会広報車活動  
学習会チラシ配り、抗議デモ・学習会  
5月 18日(金) 実行委員会

6月 4日(月) 「協議会ニュース66号」初校正  
6月 8日(金) 事務局会議  
6月 11日(月) 「協議会ニュース66号」再校正  
6月 15日(金) 平成19年度住民協議会総会  
6月 18日(月) 「協議会ニュース66号」発行。

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。